

富山・石名田木舟遺跡

- 1 所在地 富山県西砺波郡福岡町木舟
- 2 調査期間 一九九六年（平8）九月～十一月
- 3 発掘機関 福岡町教育委員会
- 4 調査担当者 栗山雅夫
- 5 遺跡の種類 集落跡・城館跡
- 6 遺跡の年代 弥生時代～近世
- 7 遺跡及び木簡出土遺構の概要



（石 動）

石名田木舟遺跡は、砺波平野西北端に位置し、福岡町と小矢部市にまたがる。標高二〇～二五mを測る周辺地域は扇状地扇端部でもあり、湧水が豊富である。調査地は遺跡中央やや東寄りに位置し、中世城館木舟城跡にも該当する場所である。町道改良工事に伴う調査の結果、八世紀から九世紀まで、一五世紀後半から一六世紀までを中心とする遺物が出土した。遺物の大

半は中世木舟城に伴うものである。遺構は過去の圃場整備の影響により、時期を明確に区分することは困難である。

出土した木簡は一点で、城西側の調査区で出土した。当初、中世包含層として取り上げたが、遺構精査時に土坑がすぐ近くで検出されたことから、これに伴う遺物であった可能性もある。出土地近辺では、一六世紀の中世土師器や漆器・下駄などが出土している。

8 木簡の釈文・内容

(1)



4.31×3.7×5 0.51

二片が接続し、裏面上部に長さ二二mm幅一一mmの長方形の浅い彫り込みがある。頭部は片側に頂点が偏り、下部の先鋭部分の角度が左右で異なる。したがって、頭部頂点を軸に写真右側に展開させたものがもとの形であった可能性がある。下端右側先鋭部の角度が鋭角的に遺存しているのは、一次利用時の形状を残す左下端より後に削られたためと考えられる。出土時、ごく薄い墨書がみられた。上部に確認できた墨痕から、呪符木簡の可能性も想定される。

9 関係文献

福岡町教育委員会『富山県福岡町石名田木舟遺跡発掘調査報告書―県指定史跡木舟城跡隣接地―』（一九九七年）

（栗山雅夫）

